

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490700067	事業の開始年月日	平成21年 6月 1日
		指定年月日	平成21年 6月 1日
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホーム みのり 丸ちゃん・山ちゃん		
所在地	(〒235-0011) 横浜市磯子区丸山1丁目16-5		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和7年3月4日	評価結果 市町村受理日	令和7年6月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホームは「おいしく食べて心も体も健康に」を開設当初から柱として、新鮮でおいしい食事を提供できる様にと毎日取り組んでいます。 ・季節の行事、誕生会、ドライブ等を行い、単調な生活にならない様に、スタッフ同士で企画を立てて実行しています。 ・医療機関と連携し、24時間体制で体調変化の早期発見に留意し、すみやかな対応を心がけ、重度化を防いでいます。また、住み慣れたグループホームで最期を過ごしたいと希望なされた方には、十分な話し合いをもち、医師、訪問看護師のもとで看取り介護を支援しています。 ・ご利用者様の尊厳を第一に考え、それぞれの思いに寄り添い、個性を大切にした支援を心がけ、実践しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和7年3月25日	評価機関 評価決定日	令和7年5月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 事業所は、横浜市直営地下鉄吉野町駅から徒歩15分程の住宅地に位置している。軽量鉄骨造り3階建ての2、3階の2ユニットの事業所で、1階は同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所となっている。横浜市中で介護や看護など多くの福祉事業を展開している株式会社が運営している。 【介護計画に基づくケアの実践】 介護計画は、アセスメントとモニタリングを基にカンファレンスを行い作成し、3ヶ月ごとに見直しているが、状態により随時見直している。モニタリングは、計画作成担当者が介護記録や職員の意見などを踏まえ3ヶ月ごとに実施している。介護計画の見直しに際し、家族には計画の案を郵送して意見を聴いている。見直した内容は、申し送りノートで周知している。介護計画のサービス内容を介護記録に転記して、実施状況を確認できるようにして、計画とケアとの連動を図っている。 【医食同源に基づく健康な身体作りの支援】 運営理念である「医食同源を基本に食事の中に楽しみ喜び癒しを感じて、健康な身体作りを支援する」の実現に向け、調理専任の職員が献立から食材購入、調理までを担当して、手作りの食事を提供している。利用者にアンケートを取り、献立に反映している。利用者は、味噌汁作りや盛り付けなどを手伝っている。食の進まない利用者には、食器の変更や、食事の動作の丁寧な説明などを行い支援している。また、食事レクリエーションで、ハンバーグ、たこ焼きなどを作り楽しんでいる。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームみのり丸ちゃん山ちゃん
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
		○	3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホームみのり丸ちゃん山ちゃん
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「穏やかな環境の中で、一人ひとりに寄り添い、思いやりと優しさをもってお互いに助け合う」「家庭的な温かく優しい環境を提供する。明るく思いやりのある、笑顔が絶えない空間づくり」をスタッフで共有し、職員間の連携をはかり、ご利用者様の尊重しケアに繋げています。	事業所では、法人の理念・行動指針を基に職員が全員で話し合い、1年間の目標という位置づけでフロアごとの理念を策定している。理念は、フロアや事務室に掲示して周知している。職員は、理念に基づき、利用者の「できる、できない」ではなく、「楽しめるか、楽しめないか」を重視して、「楽しめることの実現」に向け、個々の思いに寄り添い、個性を大切にした支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事(夏祭りや餅つき)に参加している。	事業所は、町内会に加入して、回覧板や町内会長との交流などから地域の情報を得ている。散歩の際に、地域住民と挨拶して交流している。今年度は、地域の餅つきに参加したり、10月に祭りの神輿が来所したりしている。敬老の日には老人会からお祝いの品が届いている。地域の避難訓練には、職員が参加している。また、クリスマス会の際に、マジックショーのボランティアを受け入れるなど、地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症の方の状況や認知症が進行していく中で、ケアの方法などを情報交換している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	季節ごとの活動報告や、利用者様のケアについて等、アドバイスを頂いている。	運営推進会議は、2ヶ月ごとに利用者の代表者、町内会長、民生委員、地域包括支援センターの職員をメンバーとして対面で開催している。メンバーからは、施設内見学の際、行事や外出時の写真を見て「良く活動していますね」といった感想があった。また、メンバーから町内の花見や、地域包括支援センター主催の感染症・認知症関連の研修の情報提供を受けている。外部評価の結果は、運営推進会議で説明して、意見をもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	折に触れ、地域全体の状況や近隣の町内会の情報等を伺い、ご指導を頂いている。空室情報を共有し、新入居に繋げている。	区の高齢・障害支援課には、運営推進会議の報告書を送付して、事業所の実情や取組みを伝えている。また、利用者の介護保険要介護認定申請代行で区役所を訪問した際や電話連絡で、助言や指導を受けている。生活支援課とは、電話連絡で生活保護費を受給している利用者の状況に関する情報共有や、介護券に関する相談などを行っている。また、行政からは、メールでの情報提供も受けている。職員が、行政の感染症予防の研修に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないと決められていますが、やむを得ない時は身体拘束(サイドレール、Y字ベルト等)の説明、同意を家族からいただき、対応している。また毎回ミーティングで必要か必要でないか話し合いをしている。	身体拘束適正化に関する指針を定め、身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1回、身体拘束等の適正化のための研修を年2回開催している。委員会の内容は、議事録を回覧して職員に周知している。委員会では、家族の同意のもと実施しているサイドレールやY字ベルトの使用に関する振り返りや、スピーチロックの事例検討などの具体的な話し合いをしている。帰宅願望の強い利用者には、話を聴き、したいことを一緒にすることで気が紛れるようにしている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何か、日々の言動が虐待につながらない様にスタッフ同士で話し合う様にしている。	高齢者虐待防止のための指針を定め、虐待防止委員会を3ヶ月に1回、虐待防止のための研修を年2回開催している。不適切なケアについては、フロアミーティングで話し合っている。利用者が、何度も職員を呼ぶことに対して、つい職員の口調がきつくなってしまうケースについて、管理者は、「その人を知る」という基本に戻り、寄り添ったケアを行うことの重要性を説明したことがある。また、「不適切なケアに関する自己点検」で振り返りを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用している方が数人いる。ケアマネジャーは外部研修に参加した。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書を声に出して読みながら、一つ一つ説明し、納得いただいている。契約締結後も家族にホームでの様子を伝え、話しやすい関係が出来る様努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望は、管理者、ケアマネージャー、各フロアリーダーが家族に連絡し、情報交換や意見、要望を聞き入れている。そこで得た情報は、各フロアに適切に伝達している。	家族の意見・要望は、来所時や電話連絡などで日常的に把握して運営に活かしている。また、誕生日会、クリスマス会などの家族が参加する行事でも意見・要望を聴いている。管理者は、家族に利用者の現在のADLなどを説明して、利用者の状況を理解してもらったうえで、意見・要望を聴き出すようにしている。家族から「調理をやらせてもらいたい」との要望があり、味噌汁の具の材料を切るなどの手伝いをしてもらっている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや業務の合間で意見、情報の交換を行い、月に1回フロアミーティングで議題に挙げて、話し合い検討している。	職員の意見・提案は、管理者が、日々の会話や毎月のフロアミーティング、朝夕の申し送りなどのほか、個人面談などで把握し、運営に反映している。個人面談は、年2回人事考課を兼ねて実施している。法人の事務長や部長が来所した際にも、職員の意見などを聴く機会を設けている。職員から、「利用者の状況変化などで、多忙になる時間帯が変わることへの対策として、勤務時間を変更したらどうか」という提案があり、採用している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場を目指している。努力や実績が給与、役職等に反映できる様にしている。	法人は、等級・職位別に対応役職、職務内容、資格・能力・経験・スキル、研修などを明示したキャリアパスを策定して、職員が自らの将来の姿を描くことができようとしている。また、人事評価制度を採用して、公平な評価をしている。資格取得支援策として、介護福祉士に資格手当制度を設けているほか、認知症介護実践者研修などの資格取得に関する研修の受講は、勤務扱いとし受講料・交通費を補助している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人と向き合う時間を取り意見を聞き、働きやすい環境にしている。またスキルアップの為の研修を実地している。	職員は、法人や事業所が実施する身体拘束・虐待防止、認知症、感染症対策、倫理、法令遵守などの研修に参加している。また、資格取得に関する研修などの外部研修にも参加している。事業所では、研修に参加した職員は、受講レポートを作成して法人に提出している。非常勤の職員も、研修や会議に参加しスキルアップを図っている。新入職員は、法人の研修や、事業所でのリーダーを中心にベテラン職員によるOJTで育成している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	人員不足の為、なかなか行えていない。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく生活する場所が安心できる場所だと思っただけの様に、声掛けを多くし、お話をじっくりと伺い、不安な要素を取り除く様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が納得して入居を決められる様に、迷っている事や、不安な事が解消されるように、話し合いの機会を設けたり電話で連絡を取り合ったりして信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活状況を伺い、何が必要とされているか見極め、情報収集に努め、ケアの方針を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの能力に応じて、出来る事を大切にし、ご利用者様と職員が共に支えあう関係が築けるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の希望、要望を伺ったうえで、ご利用者様とご家族様のいいつながりが保てる様に、季節の行事、運営推進会議等へ参加していただき、ご家族様と職員が協力してご利用者様を支えている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	マスクを着用していただき、面会は可能にしている。またご家族等と一緒に外出や外泊も可能にしている。	事業所では、入居時のアセスメントや家族からの情報で、利用者の馴染みの関係を把握している。友人や知人の来所時には、居室に案内している。電話や手紙の取次ぎ支援なども行っている。利用者が愛読している新聞の購読や、家族が持参する馴染みの柿、ゼリー、クッキーやバウムクーヘンなどの取次ぎを支援している。また、利用者の靴や洋服の購入支援もしている。購入する際は、利用者の好み物を通販カタログで確認している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で役割分担を決めたり、時には一つの事にみんなでかかわりあったりしながら、よりよい関係性を築くようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方、他施設へ移られた方のその後の様子をご家族から知らせて頂いたり、移られた入院先や施設との方法交換も行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用様の思いや意向を伺い、出来る限りこれにそえるように努め、介護計画書に記載、全職員が把握できる様にしている。また、思いや意向の表明が困難な場合は、日常のご様子やこれまでの言動等から類推し、思いや意向をくみ取って検討、把握を行っている。	職員は、入居前に自宅や病院などを訪問して住環境や生活歴を確認している。また、利用者の当時のケアマネジャーにも利用者に関する情報を確認している。入居後は、日頃の会話のほか、入浴や散歩の際など1対1の時間を大切にして、思いや意向の把握に努めている。把握した情報は、申し送りノートなどで共有してケアに活かしている。利用者からゴミ捨てを一緒にやりたいという要望があり、介護計画の支援内容に盛り込むことを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員がいつでも個人ファイルを閲覧出来て、ご利用様の情報を把握し、それぞれの個性に合った対応を行うケアに繋がっています。特に新入居時には、これまでの暮らしを把握する事により、ご利用様が新しい環境に慣れる一助となる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り、申し送り帳、ミーティング等で、一日の様子、ADL、新しい発見、利用者様のさりげない言葉を、記録に残し職員全員が共有・把握できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族の思いや意向を伺い、現状に即した暮らし、ケアの方向を把握し、医療職等の見解を取り入れ介護計画を作成し、日々個人記録に載せ、ケアに反映させるようにし、モニタリングは3か月／1回を基本として行っています。	介護計画は、アセスメントとモニタリングを基にカンファレンスを行い作成し、3ヶ月ごとに見直しているが、状態により随時見直している。モニタリングは、計画作成担当者が介護記録や職員の意見などを踏まえ3ヶ月ごとに実施している。介護計画の見直しに際し、家族には計画の案を郵送して意見を聴いている。見直した内容は、申し送りノートで周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画が分かりやすく記載された個別記録に、日々の様子や行ったケアの実践・結果等を記入し、職員間の情報共有を行い、ケアや介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	残存機能の低下を防ぎ、重度化する前に訪問リハビリを活用する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で昔から利用している美容室に訪問してもらっている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の通院を希望なさる方には継続して受診できる様に協力し、受診時の状況、処方薬をきちんと把握し、ご利用者様の状態の情報提供を行っている。	利用者全員が、24時間オンコール体制の3ヶ所の協力医療機関のいずれかをかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診している。かかりつけ医である協力医療機関とは、病歴などの情報共有や急変時の対応の確認をしている。歯科は、希望者が随時、協力医療機関の訪問診療を受診している。眼科などの専門医への通院は、原則、家族が付き添っている。訪問診療の受診情報は往診記録に、通院の受診情報は申し送りノートに記入して、職員間で情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	3月より訪問看護の事業所が変わりました。アセスメントや服薬情報の情報共有をし、普段の生活の中での小さな変化や気づきを伝えて迅速な対応、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は入院先の主治医と連携を取り、時には直接お会いして退院後の生活が安心して送れるように、指導、助言をいただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する施設の方針をお話しし段階を経て、ご家族、医師、看護師で話し合いをし、同意が得られた時は看取り介護を行える様にしている。	事業所では、入居時に「重度化・終末期対応に関する指針」と「重度化・終末ケア対応指針」を説明して、同意を得ている。看取りを行う場合は、「看取り介護についての同意書」を取り交わしたうえで、看取り介護計画を作成して支援している。職員は、家族や医療関係者と連携して支援している。カンファレンスには、家族や医療関係者も参加している。看取り後は、職員間で良かった点、改善点などを話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングで対応を説明し、スタッフ全員ができるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は1階の小規模多機能型居宅介護と合同で実施している。	事業所は、夜間想定訓練も含め、火災や地震を想定した避難訓練を年2回実施している。来年度の1回目の5月の避難訓練には、消防署の職員が立ち合うことが決定している。事業所のBCP(事業継続計画)は策定済であるが、研修や訓練(シミュレーション)は実施できていない。災害用備蓄品はリストを作成し、職員分も含め3日分の食料と飲料水を確保して、屋外に保管している。また、カセットコンロ・ボンベなどの熱源も整備している。	BCP(事業継続計画)は策定済ですが、研修や訓練(シミュレーション)が実施できていません。年2回実施することが期待されます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳やプライバシーに配慮した対応を心がけている。入浴や排泄の際には羞恥心に配慮したケアに努めている。	職員は、入社時に秘密保持に関する誓約書を提出しているほか、倫理や法令遵守に関する研修を受講している。利用者の呼称は、名前に「さん」付けを基本としている。職員間の会話では、利用者の氏名ではなく、部屋番号としている。利用者不在の居室に入室する場合も、本人に確認をとっている。パソコンには、個人情報を含む電子データは保存せず、USBに保存している。USBは、事務室の施錠可能な場所に保管している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がお好きなレクリエーションを行ったり、好きな音楽を聴いたり希望に沿った支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室でゆっくり過ごしたい方、皆と一緒に過ごしたい方、それぞれ希望に沿い過ごしていただいている。また居室で過ごす方は居室にこもりきりにならない様に声掛けは行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方はご自身で選んだ好みの服を着ていただいている。整髪、髭剃り等は常に行い、清潔を心がけている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房で作った、手作りの食事を提供し、食の楽しみを通して利用者の健康な身体作りを支援している。出来る方には味噌汁づくりや食事の盛り付け、食器拭き等を職員と共に行っている。	主菜と副菜は、調理専任の職員が献立から食材購入、調理までを担当して、手作りの食事を提供している。ご飯や汁物は、各フロアで職員が調理している。利用者にアンケートを取り、とんかつやコロッケなどを献立に反映している。利用者は、味噌汁作りや盛り付けなどを手伝っている。また、食事レクリエーションで、ハンバーグ、たこ焼きなどを作り楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量を必ず記録に残し、食が進まない方には好きなものを食事時間以外に召し上がって頂いたり、水分摂取が少ない方には好みの飲み物を勧めた上で、栄養・水分確保が不足する場合は良し、看護師に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、おひとりずつに合わせた口腔ケアを行い、必要な方は、訪問歯科の往診を依頼し、治療や助言をいただいている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターン、習慣を職員が把握し、タイミングを見計らって誘導をし、トイレでの排泄を第一に考え、清潔に過ごしていただくように支援をしている。	支援を受けずにトイレで排泄できる利用者が4～5名程いる。他の利用者は、排泄パターンに基づく定時誘導や随時誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。誘導の際は小声で話しかけるなど羞恥心に配慮している。夜間は、睡眠を優先したり、定時に声をかけベッド上でパットを交換したりするなど、個人の特性に合わせて支援している。バルーンカテーテルを使用している利用者也支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、体操で体を動かし、水分があまり進まない方にはお好きな飲み物を提供し水分が取れる様支援している。また排泄表で排便の有無を確認し、下剤を処方されている方は服薬していただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則として週2回の入浴を行っています。また体調、身体状況に合わせてシャワー浴を取り入れ、入浴を楽しんでいただける様に工夫している。	事業所では、週2回、午前中に入浴を基本としている。時間帯の希望がある場合、可能であれば対応している。入浴チェック表で入浴歴を確認して、入浴する利用者を決めている。体調の悪い利用者は、足浴や清拭で対応している。利用者は、職員との会話や菖蒲湯、柚子湯、入浴剤の湯を楽しんでいる。リラックスして歌を歌う利用者もいる。また、同性介助の希望があれば対応するなど、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間は特に決めず、ご利用者様のリズムに合わせ、必要な方には、昼寝も取り入れています。リネンは清潔なものを使用し、部屋の温度、湿度、照明にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬の目的、用法、用量を薬情報提供書で把握し、服薬時にはご本人と職員二人体制により服薬チェック表を用いて服薬していただいている。薬の変更があった時は申し送り帳に記載し、職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の好みを把握し、それぞれが楽しく過ごせる様に、レクリエーション、外出支援を行い、役割分担を持つ事によって張り合いのある暮らしが出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに行き気分転換できる支援をしている。また家族と共に外出や外食される事もある。	天気の良い日には車いすの利用者も一緒に事業所の周りなどの散歩や、向かいのスーパーへの買い物に出かけている。今年は車を利用して初詣や花見、中華街・赤レンガ倉庫など桜木町周辺に出かけた。家族の支援でお墓参り、外食や、外部受診に出かける利用者もいる。事業所では、利用者の外出歴は、業務日誌に記載して把握し、外出状況の管理に活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	直接お金を使う事はほとんどないが、スタッフと共にすぐ前のスーパーで好みのものを買いに行く事はある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声が聞きたくなった時や、電話での連絡が必要な時は、いつでも利用できる様にしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な共同空間で、ご利用者様が安心して居心地よく過ごせる様に工夫し、各部屋の掃除をスタッフと一緒にを行い、季節に合わせた飾り等をみんなで力を合わせて作り、食堂やリビングに飾っている。	リビングは、大きな窓があり、採光もよく明るい。眩しい時は、カーテンで明るさを調整している。日めくりカレンダーや、トイレのピクトグラム表示などで見当識に配慮している。温度・湿度管理は、エアコンと加湿器で行っている。換気は、サーキュレーターを稼働しているほか、1日1回窓を開けて行っている。壁には、利用者と職員が作ったペーパーフラワー、職員が描いた利用者の似顔絵や、行事や外出時の利用者の写真を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の好きな場所でご自身のペースで過ごしたり、時には皆さんと談話して楽しめるように環境を整え、職員が声掛けを行い、ご本人の希望に応じた場所を勧められる様に工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご利用者様になじみの深いもの、使い慣れた家具、飾っておきたいもの等をご持参いただき、好みに合ったものの中で安心して過ごしていただける様にしている。	居室には、ベッド、エアコン、照明器具、クローゼット、カーテンを備え付けている。利用者は、タンス、椅子、テーブル、仏壇、テレビ、時計、カレンダー、利用者の書いた書、ギターや、家族の写真などの馴染みの品や思い出の品を持ち込んでいる。清掃は、利用者や職員が毎日行っている。利用者の多くが夜7時には居室に戻り、テレビを見たり、横になったりしてくつろいで過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室のドアには目印になるものを飾ったり、トイレ、浴室等はわかりやすい様に表示して迷わず移動できる様に工夫している。		

目標達成計画

事業所名 ていけいのりゅうがく 山形県

作成日 7.6.30

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	BcPの研修が未実施	BcB研修、訓練も実施する	年回計画に取り込み 研修も実施していく	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。